

研究班番号【 27 】  
現代社会における宗教の存在意義  
～中世日本の宗教信仰から～

社会班: 小倉 真幸、和田 凜久、上 真史

### Abstract

Recently, conflicts and repression caused by religious issues are occurring in some parts of the world. Compared to the medieval period when there were many conflicts about religion, it has improved, but it has not yet solved everything. In this study, we thought that religion is a support for people's hearts, and conducted a survey comparing the religious situation of medieval Japan, the world, modern Japan, and the world. As a result, it was found that religion is the support of people's hearts regardless of region or era.

### 要約

現在、世界の一部の地域では宗教問題を起因とする紛争や弾圧が起こっている。宗教に関する争いが多く起こっていた中世に比べると改善はしているが、未だ全ての解決には至っていない。本研究では、宗教は人々の心の支えになっていると考え、中世の日本、世界と現代の日本、世界の宗教状況を比較する調査を行った。その結果、宗教は地域や時代に関わらず、人々の心の支えになっていることが分かった。

### 1. はじめに

現代日本や世界の民主主義国家では憲法により信教の自由が保証されているが、その自由が保証されるまでの間、日本や世界では様々な宗教に関する問題や争いが発生していて、その度に宗教の存在意義が問われてきた。また、現代でも、イスラエル・パレスチナ問題などの宗教が絡む問題が起こっている。これらのことから、宗教が存在する意味とは何なのか興味を持ち研究を始めた。調べていくと中世日本では仏教やキリスト教に関わる一揆や禁教が行われていたこと、また、現代社会では多くの国々で宗教の自由が政府や政策に制限されていることが分かった。そこで、どの時代においても社会的集団や当時の政権などのに抑制されながらも、宗教は人々の心の拠り所、行動の原因・起因となっていると仮説した。宗教の存在意義を模索するにあたって、現代宗教だけでなく、宗教一揆や反乱が多発した中世日本やその当時の世界の宗教を調べ比較することで現代社会における宗教の存在意義を考えた。

### 2. 研究手法

宗教の存在意義について考察した。

#### 《実験1》

中世日本と世界の宗教問題について調べる

#### 《実験2》

現代日本と世界の宗教問題を調べる

#### 《実験3》

実験1と実験2の宗教問題を比較して考察する

### 3. 結果

#### 《実験1》

中世日本では、時代や領主によって宗教に対する政策が異なることが分かった。中世日本を支配した信長、家康、秀吉では方針や出来事によって宗教に対する制限が異なっていた。



## «実験2»

現代日本では、政府による宗教の制限や弾圧は強く、また日常生活にもクリスマスなど、宗教に関連する行事がある。また、世界では、パレスチナ問題などの宗教間の対立や、サウジアラビアや中国など、政府からの宗教の弾圧がある国が存在する。

## «実験3»

中世の日本・世界と現代の日本・世界を比較して、共通点と相違点を見つけた。共通点は、「国や地域に関係なく程度は違うが生活と宗教が結びついている」ということと、「一部の地域では政府からの宗教に対する弾圧や宗教勢力間での対立が続いている」ということが挙げられる。これは、時代に関係なく宗教と日本を含めた世界の共通点であるといえる。相違点は、「中世に比べて多くの国、地域で信教の自由がある」ということである。実験2の結果で示したように、一部の地域では弾圧や紛争が続いているが、中世と比べると多くの国で信教の自由が保証されている。

## 4. 考察

実験1と実験2から、時の権力者や政策によって宗教の信仰が制限されていたこともあったが、人々は心の支えとして生きていたことがわかる。現在では、多くの国で宗教の侵略の自由が保証されていて、わたしたちの日常生活と深く結びついている。ここから、宗教は人々の心の拠り所であり、さらに行動の起因になっていると考える。

## 5. 結論

現代における宗教の存在意義とは、地域や家柄に関係なく人々の生活と強く結びつき、心の支えとなるものである。政府や領主に弾圧されながらも信仰を貫いたことから、人々は宗教を心の支えにしてきたことがわかる。しかし未だ宗教信仰を禁止されている国や地域があり、それらの地域での信教の自由の確保が課題となる。

## 6. 参考文献ならびに参考Webページ

歴史まとめnet(2016) 戦国時代の信仰

<https://rekishi-memo.net/sengokujidai/faith.html>

宗教法人力カトリック中央議会(2023) カトリック中央協議会

<https://www.cbcj.catholic.jp/catholic/history/reformation>